

〔トルクロホスメチル水和剤〕

農林水産省登録 第16882号

性状: 淡褐色水和性粉末 45 μ m以下

毒性: 普通物

危険物: —

有効年限: 5年

包装: 500g \times 20袋、1kg \times 20袋

リゾレックス®水和剤

有効成分: トルクロホスメチル …… 50.0%

殺菌剤分類 14



「住友化学農業ガイド」の見方: i-農力サイトの「製品情報」、「農業ガイドを見る」から、「農業ガイドの見方」をご覧ください。
本剤の最新情報: こちらの2次元バーコードを読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報がご覧になれます。

〔適用と使用方法〕

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用用量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
てんさい	根腐病	100倍	ペーパーポット 1冊当り1 l (3 l / m^2)	定植前	本剤: 1回 トルクロホスメチル: 6回 (#1)	灌注
	葉腐病	500~1000倍	100~300 l /10 a	30日前	本剤: 3回 トルクロホスメチル: 6回 (#1)	散布
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500倍	3 l / m^2	育苗中期	本剤: 1回 トルクロホスメチル: 6回 (#1)	土壤灌注
ばれいしょ	黒あざ病	50~100倍	—	貯蔵前または 植付け前	1回	種いも浸漬 (10分以内)
にんじん	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000倍	3 l / m^2	は種時	本剤: 1回 トルクロホスメチル: 2回 (#12)	全面土壤 灌注
	根腐病	500倍	300 l /10 a	14日前		
麦類	雪腐小粒菌核病	1000~1500倍	60~150 l /10 a	根雪前	2回	散布
レタス	すそ枯病 白絹病	1000倍	100~300 l /10 a	7日前	3回	
キャベツ	株腐病	500~1000倍		14日前	本剤: 2回 トルクロホスメチル: 3回 (#14)	
こまつな	リゾクトニア病	1000倍	本剤: 3回 トルクロホスメチル: 3回 (#13)			
はくさい	尻腐病	1000倍		1 l / m^2 (150 ml /穴)	は種時および 子葉展開時	2回
オクラ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)		500倍	3 l / m^2	は種時	1回
ミニトマト		種子重量の 0.5%粉衣	—	種子粉衣		
トマトリ きゅうり すほうれんそう		500倍	3 l / m^2	本剤: 1回 トルクロホスメチル: 4回 (#11)		土壤灌注
ピーマン		500倍	3 l / m^2			

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
ピーマン	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	種子重量の 0.5%粉衣	—	は種時	本剤：1回 トルクロホスメチル：4回 (#11)	種子粉衣
	白絹病	1000倍	1ℓ/株	前日	本剤：2回 トルクロホスメチル：4回 (#11)	株元灌注
ししとう 甘長とうがらし		1ℓ/m ²	2回			
メキャベツ	立枯症 (リゾクトニア菌)	500倍	3ℓ/m ²	は種、仮植時 及び定植時	3回	土壌灌注
アスパラガス	茎枯病		100~300ℓ /10a	#8		散布
	苗立枯病			#9		
みずな	リゾクトニア病	1000倍	3ℓ/m ²	は種時	1回	土壌灌注
ねぎ	白絹病		100~300ℓ /10a	土寄せ時 但し14日前	3回	株元散布
メロン	黒点根腐病	500倍	3ℓ/m ²	定植時	本剤：1回 トルクロホスメチル：2回 (#2)	株元灌注
こんにやく	白絹病	1000倍		30日前		
だいず				14日前		
ふき				21日前	本剤：1回 トルクロホスメチル：3回 (#3)	株元灌注
りんご	紫紋羽病		40ℓ/樹	60日前	1回	土壌灌注
さやえんどう 実えんどう	茎腐病	種子重量の 0.5%粉衣	—	は種時	本剤：1回 トルクロホスメチル：3回 (#4)	種子粉衣
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000倍	1ℓ/m ²	7日前	本剤：2回 トルクロホスメチル：3回 (#4)	土壌灌注
みつば	立枯病	500倍	0.5ℓ/m ²	90日前	本剤：2回 トルクロホスメチル：2回 (#5)	
みつば (水耕栽培)				育苗期 但し、収穫 40日前まで	1回	
うど	白絹病	1000倍	100~300ℓ /10a	45日前	本剤：2回 トルクロホスメチル：3回 (#6)	散布
はすいも (葉柄)	茎腐病			7日前	3回	
ぎぼうし	白絹病			1ℓ/m ²	90日前	2回
ブロッコリー	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500倍	3ℓ/m ²	育苗期	本剤：2回 トルクロホスメチル：3回 (#7)	土壌灌注
				21日前	本剤：1回 トルクロホスメチル：3回 (#7)	株元灌注

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
豆類 (未成熟、ただし、さやえんどう、実えんどう、未成熟そらまめを除く)	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000倍	1ℓ/㎡	は種時	1回	土壌灌注
未成熟とうもろこし	紋枯病	1500倍	100~300ℓ/10a	14日前	2回	散布
みょうが (花穂)	白絹病	2000倍	5ℓ/㎡	みょうが (花穂)の収穫 14日前まで 但し、花穂を収穫 しない場合に あつては開 花期終了まで		土壌灌注
みょうが (茎葉)				21日前		株元灌注
にら	立枯病	1000倍	3ℓ/㎡	前日	1回	土壌灌注
にら(花茎)				は種時 但し、収穫 30日前まで		
ふだんそう	立枯病	500倍	1ℓ/㎡	は種時	本剤:1回 トルクロホスメチル:2回 (#10)	土壌灌注
未成熟そらまめ	茎腐病	1000倍	1ℓ/㎡	前日		本剤:2回 トルクロホスメチル:2回 (#10)
花き類・ 観葉植物	立枯病 株腐病 茎腐病	500~1000倍	3ℓ/㎡	生育期	5回	土壌灌注
	白絹病			—		株元灌注
スイトピー	腰折病			生育期		土壌灌注
カーネーション	根腐病			生育期		土壌灌注
アスター	苗立枯病 (リゾクトニア菌)			100~300ℓ/10a		散布
ハイドランジア				100倍		100ℓ/10a
チューリップ	葉腐病	200倍	200ℓ/10a	植付後 ~萌芽前	5回	全面土壌 散布
		1000倍	200~700ℓ/10a	発病初期		散布
樹木類	くもの巢病	1000倍	3ℓ/㎡	発病初期	5回	株元灌注
	白絹病					苗木兼 全面土壌 散布
えぞまつ(苗木) とどまつ(苗木)	苗立枯病 (リゾクトニア菌)			発芽後 (発病初期)		苗木兼 全面土壌 散布

#1: 育苗土壌への混和は1回、500倍希釈灌注は1回、100倍希釈灌注は1回、散布は3回

#2: 定植時は1回、生育期は1回

#3: 種茎粉衣は1回、定植前の土壌混和は1回、株元灌注は1回

#4: 種子粉衣は1回、は種時の土壌灌注は1回、生育期の土壌灌注は2回(但し、は種時に土壌灌注をする場合は1回)

- #5: は種前の土壤混和は1回
- #6: 粉剤は1回、水和剤は2回
- #7: 育苗期は2回、定植後は1回
- #8: 収穫後から茎葉刈取り期まで、但し、収穫14日前まで
- #9: 株養成期(は種又は定植時から茎葉刈取り期まで)但し、収穫14日前まで
- #10: は種時は1回
- #11: 種子粉衣は1回、は種前の土壤混和及びは種時の土壤灌注は合計1回、株元灌注は2回
- #12: は種前は1回、は種後は1回
- #13: 定植前の土壤混和は1回
- #14: は種前は1回、は種後は2回

効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきる。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさける。
- てんさいの根腐病、葉腐病に対しては、予防的に散布する。また、根腐病に対しては株元を中心に散布する。
- 野菜類の苗立枯病防除では、リゾクトニア菌による苗立枯病には有効であるが、他の病原菌による苗立枯病には効果が劣るので、それらによる苗立枯病の混発が予想される場合には、他の有効な薬剤と組み合わせて使用する。
- ばれいしょに使用する場合は次のことに注意する。
 - 浸漬処理の場合は、所定濃度の薬液に瞬時～10分間浸漬する。
 - 処理した種芋はよく風乾してから貯蔵または植え付ける。
- さやえんどうの茎腐病に使用する場合、多発地では種子粉衣処理では効果が不十分な場合もあるので、土壤灌注処理と組み合わせて防除する。
- オクラの苗立枯病に対しては、植え穴または株元に灌注処理をする。
- カラー及び花はすに使用する場合は、灌水状態で使用しない。また、使用后14日間は入水しない。
- 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理する。
- 本薬剤を施設で使用したあと、施設内に臭気が残る場合には換気を行う。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。
なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋などを着用する。
作業後はうがいをするとともに洗眼する。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用后(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係ない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- 本剤で処理した種いもは食料や動物飼料として用いない。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

〔品目特性〕

- 有機リン系の殺菌剤です。
- 作用機作は未確認ですが病原菌の運動機能や細胞分裂の制御機能に影響を与えて殺菌効果を発揮すると考えられています。
- 予防的な処理で効果があります。
- リゾクトニア属菌、コルティシウム属菌、ティフラー属菌などに対して効果があります。
- りんごの紫紋羽病にも効果があります。